

◆障害者の自立と社会参加を支える環境づくり

継続 「障害者自立支援給付事業」や「地域生活支援事業」などの事業を引き続き着実に実施します。

拡充 手話通訳者の設置・派遣を行う「コミュニケーション支援事業」、障害者の相談、支援を行う「相談支援事業」、障害者の自立を促す「社会参加促進事業」などの事業に取り組めます。



多くの人が手話を学びました。

◆子育てをしつかり支える環境づくり



安心して子育てのできるまちを目指しています。

拡充 妊婦健康診査の公費負担回数を大幅(5回→14回)に拡大し、個人負担をなくします。

拡充 「親育ち講座」などの育児教室を市単独事業で実施します。(県事業が終了するため)本市の職員が専門資格(ファシリテーター)を取得資格を生かした活動で、育児不安の解消に努めます。

拡充 子どもの生活リズムに着目した「子どもの生活リズムを守り隊事業」を家庭や保育園、幼稚園と連携を図りながら拡充して実施します。

◆災害に強いまちづくり



安全な学校で子どもたちの笑顔を育みます。

新規 20年度に実施した耐震診断の判定に基づいて、市内全中学校の耐震補強工事に着手します。

拡充 小学校15校、中学校7校の体育館の耐震診断を行います。

継続 引き続き防災行政無線のデジタル化ならびに自然災害から市民を守る海岸保全、農地農業用施設など各種公共施設の整備を進めます。

継続 加津佐町と口之津町での屋外スピーカーのデ

別接種に変更し、子どもや保護者の都合に合わせて受けられるよう改善します。

継続 休日保育、一時保育などの特別保育を拡充するとともに、保育料の軽減措置などに引き続き取り組みます。

継続 社会福祉士を設置し、増加している児童相談などに引き続き的確に対応します。

◆安全な消費生活を守る体制づくり

新規 すでに設置した市民相談センターに加え、多様化、複雑化する相談に対応するため、新たに「消費生活相談員」を配置します。

継続 県消費生活センターなど、関係機関と連携を図りながら、消費生活相談窓口体制を強化します。

◆新たな公共交通体系への取り組み

新規 地域公共交通総合連携計画に基づき、交通空白地区の乗合タクシーの実証実験に取り組みます。(この事業は、調整が整った地域から実施します)

新規 農地、農業用施設の整備に着手します。(南有馬町曲手ため池の整備(県営事業)など)



防災の要、消防団が皆さんを守ります。

2 自然・歴史・食の産地を地域ブランドにひとときわ輝くまち

◆世界遺産登録実現への着実な取り組み

新規 「原城跡・日野江城跡・吉利支丹墓碑」の世界遺産としての価値を証明し、その環境を守るための緩衝地帯(バッファゾーン)や景観条例の制定に取り組みます。

継続 原城跡の整備計画を具体化するとともに、日野江



世界遺産登録に向け、職員一丸となって取り組んでいます。

南島原市の施政方針の推移!

- 18年度：行政改革大綱の策定。効率的な行政システム構築
●19年度：南島原市総合計画の策定。将来像実現のための施策を提示。基礎固め
●20年度：南島原市総合計画に基づく10項目の重点プロジェクトへの取り組み

◆安心・安全な水の安定供給

継続 南島原市水道事業総合計画を策定し、28年度をめぐりに施設の統廃合、更新を進め、より安心・安全な水の安定供給を目指します。

継続 水道料金体系についても今後検討します。

◆下水処理の着実な推進

継続 引き続き口之津町と南有馬町では公共下水道事業を、そのほかの地域では、個人設置型の浄化槽設置整備事業を促進します。

拡充 21年度は浄化槽(180基)の設置補助を行います。また、単独浄化槽を撤去



整備された下水道施設。出前講座も受け付けています。

◆環境にやさしいまちづくりへの取り組み

新規 次世代を担う子どもたちの環境意識の向上を図るため、長崎総合科学大学と連携し、「環境にやさしいまちづくり事業」を実施。その一環として、学校版ISOの認証制度を構築するとともに、北有馬町エコ・パーク論所原を活用してさまざまな環境学習を展開します。

新規 環境にやさしい経営を行う事業所に対する、「エコフェイス認定制度」を設けます。

◆観光地づくりへの新たな取り組み

新規 新たに福岡を出発点とする観光ルートを开拓するためのモニターツアーを実施します。

新規 農林漁業体験型の民泊体験モニターツアーを実施します。

◆地域物産のブランド化

新規 ブランド品目の掘り起こしや特産品の開発協議に加え、「南島原特産品ブレ・ニューボーン」事業を実施します。また、これら情報のデータベース化、情報